



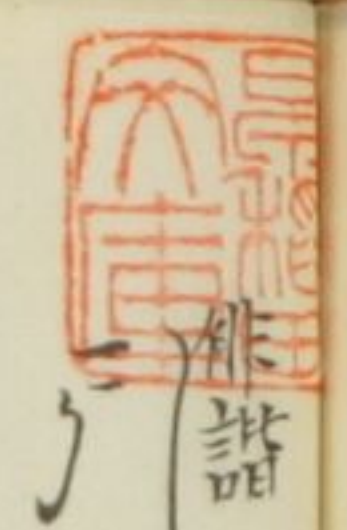
中村俊定文庫
文庫 18
94



引
子
集

天理うるまのふとく乃玉
寶珠なるも是れ早らん向ふ
此徳高し時々の世人の
やとくあつたのたう
三神洗願ひもやう
此道にたつたも或る
深き山邊に人たや
まよふ事のみ
行方た耳乃座に
目まよふ代に三句放て
名所まよふも有る
まよふ乃ふ類をよま
る降る

歌うれむとて金うのねも
ゆるまはつゝあはれをあらく
あつゝ詞の端までおそく
のまらば無利より二十やあは
ねよおひはるえやうにやと
とくしめし道歌と
書ねし流ふにあらん
あつゝひの便もなりあを
引道集と名付松木を
あつゝはるあつゝ



引道集上

行方心得

上行行方心得
中品當代句歌
下品無選道歌

一とりなり乃句百歌よき句二句
くくくくく如何といふ
心行の玉袖を失ふ有也あま
うくかおひくくあつゝあつゝ
ことあるは是ふ本あつゝあつゝ
き句式句までといふお袖の
なつゝ

とりあつゝ句

あつゝあつゝあつゝあつゝ
紙あつゝあつゝあつゝあつゝ
付付あつゝあつゝあつゝあつゝ

とて付親乃前へあてたるに
連年ちたりけりて親見とらん
とをやりてうさめ付て是
御諧此道はあり以右乃付句
めく余やなれうて知て
一かけ乃句百歌よき句或句其外
中へうは是年詞續孫をく
法もくるり初めの図てハ孫
やうに世中ぬな利分明よ
とるに

式板上を見ても
しかけて句

まうとどきうあうき此声
夢のう門極乃中て其南音を
付句何ともたといなり事ともしや

上れぬみやをふるとれはあ
う門とよめと夢のう門と
事何ともさへに

又

道と道は見れぬ候れ

既天理ありての里

是より上の七文字を既天理と
と何より事初めの七文字と見
かみ井その里とよめとあ井と
いふ事なり上の七文字は
かみとよめを付てよめと既天理に
うめとよめとあ井とにゆつ川小
分る見るにいつけれ句を詞
上下は入れて其まゝ知れども也

又孤續詞續乃句ハ似やうに
すゆきともあへちう黄金小
まうすくく其色を西山隈
付け石くー内ちくけの煙ま
あも時あは金子甚色をほし
あへちう記明く虚色を失ふに

孤續句

月もしくや明日さめて現る足

あへちう酒は衛^{エイ}霊公^{レイコウ}

け付句當流乃正意日也上の
セ文字を分て見たあへちう酒
あへちう下れセ文字を切あ
見ふに思ひの思ふことあへち
法くくくくくあへちう酒は思ひ

法くやなては心得専一あへち
ことうりくくくく句え分極や
風花乃句作るあへち四手付を好
くくくくくくくくくくく

あへち此心行を付角くくく

四手付付句

あへち紙子乃くくくけ

小鞍付くくく大根数寒あ

此付くくくあへちあへち紙はあ
紙子あはあへちあへち寒あ
はくくくくくく小鞍乃相子を
うけけあへち大根く付くくく流
あへちあへち有け付くくく作あ
是をあへち流めく付く時あは

紙子とけと紙つよふて付も也

當流付方

紙子乃らうけ
下判れ疎あそり大言屋
わやうに紙あつよふ下判と付
とらうけ付あそ大言屋と
付らう右乃付句にて當流と
左風北行方を知らうく
いへむとて男と風神を嘲は
あゝ只武梅翁兩師乃
心行をのへる平ならま他の
家乃俳諧法要服せめ人神
同くもめんは羽衣をまかせ
やうよはさるや當流乃句考別

あゝも或羽二重は急物イ
馳帯を志のつとせよ表を
くさうす一語を用裏も
花やうとそらけ其れ他
不都合成とらんをわの詞乃
あやと門も振まうへ句
作もや山の座をとり合は
みは何乃うあらん峰の
花の浪あはあゝの鯨とあよ
うせもいれ句妙もいれ
大急物もあそり大言屋
乃角えのあそり思ひ合せ
前句にちいけさるあれ
ゆゑ六万里乃行羽をりて

やむせ大あはいやーきふ
貴五れふふてあやふふ
法多行方同やふふ
を一流れ実神とふふ
一句化りふふれ切替といふ事
第一むふとふふー又俳諧
和歌乃同神なれふ句化り
うふふふふふ 大ま成俗
言を入ふて則俳諧となふて
一字切替れ句

何とて独もあふふを教ふ
痛のちやふふ足引乃ふ
是地流乃俳諧師因てふふ
ふの何と痛物といふ聊足引

此山のふふむふふふ次痛足
續きてふふれふ下道ふふ
福川ふふ替ふ一流の命と
ふふやふふれふ京極黄門
字津乃ふふとふふふ

都ふふ今や衣をう津のふ
夕霜ふふふふ下道
とふせり都ふふ今や衣を
ふふとふふふふ

又衆議雅經の歌

ふの丁海ふ時雨も雪もぬふ
衣うけふふふふの川風
是も衣うけふふふふ
ぬりやふふ流ふからふふ

一當流わけう句他と云事
世人皆新しきやうと云へ
柳の流る彼を中におの歌れ
りやをすのむにけ詞を
す——其心あきしを他
のむ意ともや一句乃風情を
うき事と新古今依跡を
あゆむ他を新くも云
十方乃淨土と云の維摩が本
の針先よ三千世を法
ぬに莊子も木火去金水は
をいせ或衣服をきせ自由に
あつふを眼よりけ一座乃

奥となせ

又といふはまゆゆ

わけうの流歌

葉平お

子早振神代もきうに龍門

うくれば井の水くおと

け一着けぬは流といふ詞なく

——あき流るといふや

うくれば井の水くおと

下あきしを命と早振田

流るは乃川は流るは例や

まゝあるまゝ

漕別流るを河と流るは
うくれば井の水くおと

仕立て付庵――

一新ある事をいつかり――他志は
あつたに事なれどへて人の名
あり――その宗因貞徳道春探幽
すは是より振ふ世に名をす
未代とも其名朽るもあ有乃
人間にれど新く――て古き
道理をゆくむやけ心得とて
今ねる人あり――一句も誂い
く――うん

うん――今時乃か――布衣を
松葉屋笠屋是より教をけり
風神はつて俳諧師因て
新――うん――うん

十年二十年造るも世乃
人少ゆ――いかに布衣
松葉屋笠屋はふあつて丁
けり――庵――屋といふ字を
いれど六十年まで時乃うん
我人と同ゆるが是は限は
あ――ん――うん――余を
あ――ん――て今とて――

一変居乃者なとの名芝居といふ
當時もやと後者乃名をけり
あ――ん――次是は我々平七年
此内――いかに名をけり
用を――いかに思ふ事
あ――ん――何處を何處を何

太夫座なりと座とつゝ文字を
下よ付て一句も法へて後人
合ふ事や又句他乃付てけ
ふ門て何者か振作し思ふ所
なすゝて若れといふへて
よく少や。句他ありと云ふ
かゝれや。此婦人有事を
思ふはさてあへてに何
事れぬ事。の事。よく
心得あり。

一本歌なりとやう世に少
歌の詞なりと其詞を少
へてと。世人は耳にぬ
かあなりと其詞をこゆ。

やうに句他を

三句よ心行後。句を知事
今句他。付句を三句目の句に
はあふ見へ。うね
三句なり。つゝ句よき
よく三句同し。付ものなり。
はつた物。いふ事。ふと
一第三文字。めりり。め
てふもの。他は極極は花
を付。事。た。人。傳。を。し。
いふ。いふ。福。心。め。て
付。し。用。捨。し。其。句。分
ふ。合。れ。し。人。は。恥。を。
ひ。し。お。お。行。な。の。り。

心へ人の筆乃とも
見くもて自然古き歌向より
とも其組合句は仕立あり
各別詞ありてく同ゆる也
上幸の給所を来由をとり
むよびさあくの色をわねみ
ことなりてうりて負ゆる事
今御落句の仕立は是なり
其法もあへるなりおれり
頂より風情おのほくお趣

月導集申ふ三句放

年北祝より月八谷より
まぐろをわね夢乃をな

立別流より比翼は鳥目より西山梅翁

師より名孫より合より

天より流より國より揚屋町

ちより袋より刀より橋山保友

浪客より人状をかせよ

雪前より足揃より山

見より通より牧屋をせまい井原西鶴

即過より歌より年より試由

大雨方風跡乃山より

月暁に雲より高麗益翁

死をなげき哀れ戸
跡あり公事八段てこも

彼行乎此中ふ分別前由乎

月乃良辰乎鴻田の花盛

浮判々ある今時乃梅

春霞棚川天下太平記中村西國

まふふ山姥の葉

うらめしき者只送

一わねのういてわ興和氣遠舟

御法とめ此声鳥乃声

小男麻にもも角をやは

柁より漂この甲首一礼

其方此は金とをんが

ゆるぎとてくむか金遠近

おーなまめくもいかけ踊高木松意

けつとそたとい威鬼子

八あるー世中乃閑

洪水つた雨の希きま引京春泥

都乃かきさると思はる

幽霊や二階にふたね放

むいーに所あらわし加藤鶴道

寝つ門のゆいふつれあ

跡絶れ其後合もはる

三乃実れ内をゆめす中村素云

集りてふと近居るおど那
相成り下す此長候哉とハ

又見ふておいてお暮の分て毎方

横塚より思ひ此水煙

我れ乃とく地をりて

くればい浪をさかす一鶴

軍はよあふんふ恋風

黒染此袖とあらとて

はれとあふと光る中村銭箱西國

鹿のとがり八東門中心

こさ箱若むいさやう

白雲す此呉服高内梅子

こゝ野の奥をさかす

志すといふれ宮乃行末

腋中よりぬき活魚の友は虫小夏山大國

あつき見玉殿此月

これやけこの利鈍をわて

行と帰とも松葉乃曲武内西波

川原を見し春の買物

あむや庭より書

今川了俊又息中中村梶西國

住もつる八百各虎針さ

はつとろふれつぬの鬼

侍宵や候枝乃國ももの音木友雪

坊主多しわが庵薄

山田よりわがやう自井より

はあゝと鈴麻の坂下松鶴道

紫雲寺より門下流石

二十ふ乃菩薩の甲子甘原

いれ。鬼をけりやまの西鶴

水蓮と雲より外への声

短冊をぬき秋の上風

水蓮の雲の六所太立廻り篠田 幽季

獄屋に由便をりしを

切先を合せて多分念仏

彼象平のつらきやう通照石里 鬼鶴

灸北烟雪乃明木の

田子の南月さあはる

柳にけ加城と保津松茸松井 西花

あゝと母をけしめえ貝

死服がういぬ海に聲

とも今三十五乃玉塔中村 西國

諸分北外八是より非軍

布を忍せしる箱崎の松

長濱に浪をりてけり

おちとこちと十年松

高山より通つる思

威陽宮よりなる夜 大國

如所
福也
朽也
石也
同

別後作此記

頽今道之庭鳥乃吉
 如道

菜物なぶたけ近きん家かを賣うて

たの野よがさるる

先愛之
此乃
終身
之

中入此束の代り少油賣

福を口上

海子先生見子時

市子山

邦公屋をわが家とせりて

移川
 秩名食より
 北風堂
 堂

心神のこころ三井は等
陸より又相坂の山残

墮よりス相坂の虫 殯

今や同之餅子此音易先外

片んがりと依夜ふ

針一本や立浪の石

山崎よりしものる葉如西柯

知人の名を尋兼川

腰をふめさうむてあ
月

市荆_石くよかけろ箱書是計

風鈴まゐる〜夢あ

又物々花橘の如く

明^{めい}地^ちを^をあ^あま^まし^しの^のう^うま^ま

むはるのきうの聖のふ

公名根子。松子。取不當紙。

細工療法の定本寒風

私弟常人の後此里子トク要

こち北西(北)三足
雨

款加八天竺_う底北馬

素心也欲八念子孫前明專

奥山ノ捨下草

清々然前白や雲風

かゝる境況を以て此世は
如見

槍と
一門此元

傳阿孔とて、を流す

儒乃道了ある厚の竹西鶴

赤い豆板名別此

文字此分是也

天神
古
地神
五方
一國

柳を肖
髮はゆほ

まふ板に別乃酒とある

伊達北只吸ふ
 りん
 松鶴

了禮の友呼の久猿の声

雪北樂人むの如也

時雨は雲をのこぬ
西の付如昔

片布こそをまゝの野の色
たふりし時いづれかの貝

海ふ千年まゝある公事中村西國

彼横埜の跡志し一痕
世世伸を何たふ人の

園子けたまふい乃夢定院公經

後友の天祥せも病えを

ていつ未渡の足柄志山

波瀾のうらませうと冥の由前川由子

かり初よおす物よがこ
一支鎖も後を百費

植木屋の軒のお技を加藤鶴道

石れまは龍角町は幸北

もゆる思ひの末と国子

先を根へのもつめる恨を安永幸万

いふまゝ橋北陰

其せうしよのふれり

茶研でくぐり朝倉の山奥村西順

ふりまふれれ馬の山

牛ももするや年代記

かゝぬ所の名井戸谷嶋不極

涉旅乃前を終るを

給さしし焔魔の帳名

既かやをうけぬ女京屋國流

此夕煙

卷之六

西鶴

卷一

公女

見上

大國

5

在雲

鬼鶴

7

西鳳

栢

一
礼

中村

西國

西山

梅翁

ゆるり罷科深浪の
大照の御手より生駒
鍋蓋のしるし落湯東山鶴道

露降もなぐいふ可也
積りて物とらん乃ちくみ
一雷公事これ博也 曙西鶴井原

御道と夕に先絶丸
引也まさしきの夜月
鳥村声も志人の三重韻作者不詳

三人三寸長崎乃未
まぬは浪打ふるを岐の
見よ跡をのくしら飛行坂川國友

字々度々夢漸き夜に
軍乱る一盃の砵
水栗をむくころも昔もて有國河津

うね国々終はてふあり
手とり汗あまる夢の未武
焼食は思ひの烟立のちも西波西内

天なうて誰を思の枝乃を
年代をきく神のしるし
見渡せばあゝ加路のち鶴道鶴道

あゝさうもな夜をうつ
肝をりよと八幡倉の山西内
七八日不意やよの年ふあふむ 惟中

若くもこの老も無

実感も口張る

又西方より十馬よりきりて大國

黒烟彼彼原北風を

あゝもよしの句いせ

大釘をおこしめし揚屋所西國

けあき鴨の首なり相撲

抱北錦 四六分也

泳進する金のお秋みて忠光

し前句よ松の風をいよ

夕飯後天乃羽衣はて

湯友もあかみ野の山西鶴

時雨うめんさん

毛川りけりあか

上戸のさびしいとての店 鶴用

花のね腕よせさ

今も毛海の春立て

河目見く 具時判友 梅前

双年猿うけりも

抱丁れむのう

伏見よ文珠観世菩薩 不極

弾きつる虎のい

立あて竹の苗を

人北郊の外れ付合 西國

たのしみ同く烟のふかき
富士と海を荷茶を行
天竺へ近きふふふ 井原 西鶴

松尾屋を誰か極楽のて
と話れぬよりいふ所の
天竺ありく比翼の鳥は三具足 如音

常々著るる王辰の二天
宴元をゆく事通る暗荷
七日のろりたるをりられ 西原 西原

夕つげは鳥十月まき
三室北の幽城 似
龍田門抱き流る 武内 西波

ちり市一の管音の豫月
風は麴の米柳 高龍
味噌桶の首珠を流れを 高龍 義羽

ちり市一の管音の豫月
峰よりなり鳥のさか
ある別れ松川 勝口 大鶴

押屋あつた外の花の法
はなぬき見あふ 中井 西國
を川をめぐりて 中井 西國

ふ通はれ未の追利
世にこそせといはれり
おや四つまはる中 西原 梅羽

ちと見し露や神の
系物れぬありふ風なき
人神に花ふさしく流るの
利玄

炯りつこりきせるふまぬ

らんがも目えん程の朝朗

誰の墨は帯りや流の川西鶴

より持たれぬ自川北関

結や飯の所下八百世也れ

よ川引ぬるいぬ中馬章方

病り座空をつらぬる

佛去薩家あるふすなや

深物色く金色し月益友

くふれ宿のふつきれ親

燈明もふし色付あは

二十一座もふ。胡广塩西國

墨跡ふけふに海より

お灯もや礎の礎の音

蘇鉄すゝやれあし声も宿光音

入初。恵の山風さびれて

自力他力に新町の音

ぐどんふやふふしこころ大國

くふれ雨の夕めは後

郭公難行難修の音

五痴文盲乃耳なり此山言水

志やせん柱の角物平物
鴉口をふりさけ行を恋の道

后の馬と此火用のしよ井原西鶴

追もつめあへる谷戸
おつゝま喰ひいあを

今もつゝま喰ひいあを西山梅公羽

見所帯村との秋の夜宵

足れ下宿さる野郎の中村

ぐりといふる珍虫乃声西國

其里よりつゝま喰ひいあを

行平あつゝま喰ひいあを

冬陣よりつゝま喰ひいあを薩摩江雲

関乃戸を笑ひやあめん
珍麻の鬼と横道なり

駕籠ちんをさつてやまが牧野西鬼

おもしろ浪のちあめん

おもしろ浪のちあめん

おもしろ浪のちあめん南元順

引替る其あふれ立波

猿乃ものゝつゝま喰ひいあを

一多江のつゝま喰ひいあを作者

流るすゝま喰ひいあを天竺

雲流るすゝま喰ひいあを

史世鬼知るすゝま喰ひいあを西鶴

引道集

下

名歌道歌

女郎花

女郎花

生野源

采男山嶽

城野伏見

盤山

一
ノ
ノ

野化野位

山朝和の原

武

北野の系

一 天の

河原

名陸元川

和田の池

猿沢池

山
吹

山吹金

後山

山縣

井戸

流金

一
士
野和

清源水

序州玉城

趙野井

年佐保和川

知苑

知此

宇治小野の

與王

新田生

根盤

和
部

の
姨ハハ拾シツ昆コン月ツキ

池田

何小物也

未
松
山

杜名城廣和良橋婦和杜橋と云の地和菅田橋の他橋は清水の水

若榮

若菜近む老近曾近のふ布和る女月春月日月野鳥近野鳥近良近の
—粟津近津近沢近川近や御近日近は源近家近貳近丸近の原近

奴藤

長久野田振 大谷和 山崎近 飛騨和 河内近 志保の
 城障 小野末若狭 松本和 大川城 乃末

後浪

浪波ミナ裳濯ミナ川ミナ子春ミナ野ミナ加茂ミナ岩ミナ生ミナ松ミナ

吟

古奥文野^{掛野}臨海^{原張}又新^城築布^{和義}留^の不破^近栗^武池^城狭^川白

郭

郭公^城年^同名^同音^同羽^和介^揚今^和名^和龍^和田^和生^和田^和天^和の香^和公

一片雲乃素山停城日接難波河日延日中山

近坂武松野園橋山明石生花と海老の里

一 傳田成子集名於定川田子浦良

[illegible]

軍兵川智川鳥羽田の里より衣子因へ去

白浪

考 浪 龍 田 吹 上 次 戸 の 浦 長 新 布 引 米 の 松
和 紀 城 檜 陸
 濱 舟 塙 二 夜 浦 明 子 の 浦 子 促 里
崇 正 常 播 檜

帝

寺板郊後陵近漢河內陽陽城風

鶯

鶯近城相坂和合音和羽和音和珠和田和春日和日和砂和

三輪和空和山和穴和師和中和同和若和尾和吉和備和中和山和

鶯和の歌和又和は和ま和山和朝和比和系和に和合和名和の和山和

鶯

鶯和天和涼和草和交和野和外和軍和の和更和射和里和を和野和高和原和

野和高和山和朝和の和原和伏和見和大和原和官和城和野和の和原和

阿和多和大和野和又和遠和里和石和田和の和杜和木和曾和山和の和木和

松

松和虫和遠和里和野和又和挂和川和山和の和小和昆和陽和子和街和の和南和

水和草和の和要和小和野和は和奥和多和野和の和山和又和ま和う和伊和波和山和

官和城和野和の和系和有和拙和川和阿和多和大和野和又和青和山和

秋風

秋風和白和川和乃和因和不和破和の和因和物和漸和の和因和物和漸和の和山和

吹和上和野和波和作和赤和岩和田和の和小和野和又和候和捨和比和山和

松

松和子和溪和流和中和後和流和山和な和が和き和の和歌和に和合和名和の和山和

高和砂和踏和水和を和河和川和字和流和比和夫和山和小和余和後和砂和

布和留和比和比和山和三和宮和吉和柄和小和野和又和と和駒和吹和上和

松

虫和火和倉和境和武和野和又和三和宮和山和父和野和初和後和野和又和新和條和の和

栗和野和有和乳和化和野和原和系和朝和の和原和又和り和佳和美和の和里和

春雨

春雨和片和雪和乃和麥和草和花和比和里和朝和の和系和又和三和輪和虫和又和

五月雨

三ノ井 佐野 北野 松橋 次郎 新屋 八雲 美豆野

北浦 野馬 小井川 井手 北里 小八 乃之山

芦花 北里 野山 室八 湯子 伊勢 北海

時雨

時雨 小生 生野 小生 山 篠田 北里 小倉山

守山 物部 三宅 山 白川 乃国 乃中山

大原 北里 野山 山 乃中山 乃中山

夜手 北里 野山 山 乃中山 乃中山

花

花 乃中山 乃中山 乃中山 乃中山 乃中山

宇野 乃中山 乃中山 乃中山 乃中山 乃中山

尾花

尾花 乃中山 乃中山 乃中山 乃中山 乃中山

宇野 乃中山 乃中山 乃中山 乃中山 乃中山

宇野 乃中山 乃中山 乃中山 乃中山 乃中山

紅糸

尾花 乃中山 乃中山 乃中山 乃中山 乃中山

宇野 乃中山 乃中山 乃中山 乃中山 乃中山

宇野 乃中山 乃中山 乃中山 乃中山 乃中山

宇野 乃中山 乃中山 乃中山 乃中山 乃中山

糸

尾花 乃中山 乃中山 乃中山 乃中山 乃中山

宇野 乃中山 乃中山 乃中山 乃中山 乃中山

松

松後三笠の山や有栖川三吉奴見子秋山松
伏見大原新田大井川後波浮沼の土井次
紀日勢野原接小余綾衣手の妻

松風

平月風辛酉馬羽此里高砂の浦首松
嵯尾岩橋八幡山野乃宮若原相崎の溪

天津乙女

天津吉野松志賀乃浦袖松山三保余戸海

秋乃夜月

秋の夜月三笠山神楽名巻向大沢の池
雄河平井門十村交真川浦の端

三日月

三日月後山松の浦よまゝの山
一糸盤松山松形見の浦石上

山

三笠山松の浦よまゝの山
一糸盤松山松形見の浦石上

山

ありまは良足柄子山安倍光向の山松山

梅

梅那波住三笠山松の浦よまゝの山
三笠山松の浦よまゝの山
花吹上は淡佐保川暗部山朝日山

春風

去風和吉野清和跡を山和紀泉和筑前和
一近赤松和楊和佐山和越の白根和又音和株乃山和

月夜

月夜和深草和三福清見和浮和以和飯の浦和月和角和山和
一長和兵の浦和泉川和武和北野の原和沖津路山和

維子

維子和宿和太和原和片和思和小塩山和花和野和父和野和迄和依和岐山和
一和東津野和留和春山和安達和と原和又和巨和野和武和北野和

中

秘和は和坊和江和狭山和と和井和里和佐保和の和川和又和良和山和
一和野の井和片和花和を和川和布和留和の中和道和ま和る和甲和田和川和

馬金

厂和の和武和北野和塩和電和あ和る和山和谷和高田和白川和の和関和
一和ナ和市和北里和と和山和水和枝和の和要和鳥羽和や和住和す和

一和朝和の和原和と和三和平和山和依和野和の和松和橋和更和科和乃山和

一和三福和の和山和里和次和の和浦和相和比和内和や和若和崎和の中和山和

床

床和物和池和戸和呂和龍田和侍和山和下和南野和高和秋和天和の和山和

一和父和野和山和名和流和の和あ和ま和大和山和小塩和武和北野和小夜和の和山和

一和三平和由良和の和湊和や和秋和松和山和の和山和衣和手和七和条和

秋村

秋村和小和山和の和山和よ和不和破和北和国和山和田和と和亦和や和良和柳和の和山和
一和巨和勢和野和相和攻和三福和の和山和古和河和邊和と和布和留和其和本和

牌子鳥

履

香

蠶

衣之

大

狀

石

さき長柄振濃濃勢筑摩位川長尾振浦城之内の山

白雲

あさき布衣青根高田宮北八海や江崎原
——常盤城に筑山宮北八海や江崎原
——武蔵野の原野山崎山崎山崎山崎

煙

久しき室の八海や江崎原北八海や江崎原
——河内野山崎山崎山崎山崎山崎

あき路

白雲山崎山崎山崎山崎山崎山崎

鶴

山崎山崎山崎山崎山崎山崎山崎

田

田崎山崎山崎山崎山崎山崎山崎

子鳥

あさき布衣青根高田宮北八海や江崎原
——武蔵野の原野山崎山崎山崎山崎

芦

あさき布衣青根高田宮北八海や江崎原
——武蔵野の原野山崎山崎山崎山崎

雪信天因幡山小塩屋敷山天比之山

一 往各野山石搗和石山土羽浦近木越中夢知社山

和
巨勢野六田の定や若浦向は累々木幡三越所

方羽交野郡波津小野武奥栗津波信漢河
 丹皮壁記加美栗河達乙

丹波陸奥遠江
生野白川関高野山白山繪巻小夜北中山

夕立木曾^{行の}の赤^{丹波}大江山朝^城島子^和天^和く山

高田の山は溪谷深信太長谷野の系

和近同接和義の類前
おのゝ生駒辛崎比良山作の交野木破勢山

一 穴師 和 山也伊勢越海王川吹上栢木乃麥

素柳 八狭山 武和 竹 和 龍名河 菅田池 月 布留木 月 仲香

一 凌普城城加水接蘇州和狼溪卷河八橋和佐保下南門

渚
 歸荷朝野白川淡海城
 五羽山同
 味比月味比月
 の
 岩同
 多山

—水母イサナの淀イソは天アマの川カハのふや天アマの香カふ

陽
 大
 嶺
 城
 奔
 川
 堅
 成
 野
 川
 辛
 嶺
 後
 山

二 楠有栖川三笠山大原水邊有馬永世

首狹水草の墨宅山有磯七湫は深きの里

信太阿多（多利）大野（大野）下（下）や（や）石田（石田）澤相（澤相）友（友）の山

炭電

すゝ電矢原の末小野其奥筑波の岩路笑赤山

海士

海士を三浦の塩田電網乃浦指の淡く吹上る浪

吹散藤江の浦と与の浦阿波の浦と其の

一歩三歩の浦と其の浦阿波の浦と其の

村雨

村雨を鳥羽田の里と和歌山を野交野と其の

君の代

天代を藤原の里と和歌山を野交野と其の

旅人

旅人を下野の里と和歌山を野交野と其の

鐘の音

鐘の音高野小和歌山を野交野と其の

清見高野あり山相坂栗津野三井七古寺

杉舩

杉舩を桑乃川と和歌山を野交野と其の

鴨

鴨を金波の里と和歌山を野交野と其の

淡波の里の池と其の池清波の池と其の

霜

霜を三宅の里と和歌山を野交野と其の

橘

橘を大津の里と和歌山を野交野と其の

張己卷之六

春

